

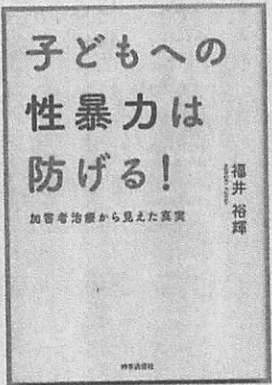


著者は精神科医として性暴力の問題に長年向き合ってきた。原点にあるのは、性的虐待を受けて解離性同一性障害(多重人格)を発症した被害者を救えなかった無力感だった。「被害者を生まないためには加害者をなくすしかない」と、取り組んだ研究や臨床で得た情報と提言をまとめた。

性の対象を子どもとする「小児性愛障害」の背景から紹介。被害体験を抱えていたり、脳に損傷や腫瘍があったりする例も分かっているという。

加害・再犯防止の基本は、考えや感

子どもへの性暴力は防げる! 福井 裕輝著(時事通信社・1980円)



情に働きかけて行動を変える心理療法。グループで経験や感情を共有しながら進めることで、内省を深める契機になる。当人が安心して本音を話せるよう、その家族へ向けての助言も記す。気になったのは、国内では小児性愛障害の人に対する治療が保険診療で認められていないことだ。長期間に及ぶ場合があるため、加害の危険性を自ら感じた人が、経済的負担を理由に治療を断念する恐れがある。適切な支援体制のあり方についても考えさせられる。

(藤本わかな)

